

2. 唐人町商店街（福岡市）の活性化案：2つのStageによる取り組み

（応募チーム：中村学園大学流通科学部 浅岡 14B（3年）・15B（2年）ゼミ）

（評価）

福岡市商店街の抱える一般的課題として、役員の高齢化と後継者不足、集客力の核となる店舗不足がある。これに対する市側の働きかけで、今回若者を取り込んで商店街活性化策を検討していただくという試みで出てきた案件である。商店街の活性化に若者がその街に関心を持ち、アイデアを考え商店街と一緒に実行していくことは、短期的な効果だけでなく長期的にも後継者不足の解消などの間接効果も期待できるところで、大変興味のある企画である。しかも今回のアイデアはデータ分析に経営分析手法を用いたりして論理的な整理も図られ、この面でも優れた取組であったと評価できる。このような取り組みの結果、対象となった唐人町商店街がどのように変わるのか、将来が楽しみでもある。

（アドバイス）

（1）継続した取り組み

この企画は大学のゼミの一環として行われたものであり、アイデアでの実現には主体的にかかわる学生が変わっていくのやむを得ないことですが、後輩の次の学年の学生たちには、先輩グループが示してくれた次のステップ（集客イベントや個別の商店への学生らしいアドバイスなど）に向けて、頑張っていたいただきたいところです。例えば集客イベントの結果の動線変化の有無の要因分析（潜在顧客の立場に立った人間行動の観察）も有益かと思います。なおその過程で先輩たちの描いたステップに修正を加えても構いません。そして数年後にはその成果を見るために今回企画にかかわった学生たちのボランティアになりますが、唐人町商店街に視察に戻ってきて、評価をしていただくのもあるのではないかと思います。学生の発表で「当事者の立場に立って、そして愛着を持って行う」とありましたが、後輩の皆さんもこの言葉を大切に次のステップに取り組んでください。

（2）商店街側の対応の充実

今回の取組で商店街側は理事長をはじめ役員の方々が大変積極的に学生たちを受け入れて進められたと聞いていますが、今後は時間をかけて商店街全てのみならず若者との協働による全体の活性化につながる活動を展開され、魅力と特色のある唐人町商店街に発展されることを期待しております。

（3）他の商店街への応用

福岡市役所による学・知・産のコーディネーション（市役所が、大学の知（経営学・マーケティング）と商店街振興という地域課題をつなぐ）力に敬意を表し、今回のような試みをほかの商店街でも広げられることを期待いたします。また、ほかの大学（場合によっては高校）の参加も大いに期待したいところです。なおこのような企画は、つまるところ主役は商店街のみならずであることを理解し自ら行動していただくための創意工夫をどうすればよいかポイントとなります。このこと自体をオープンガバナンス方式で市民や学生の声を広く聞き、ともに歩むことを試されたらどうかとも思います。商店街という物的な環境ではなくやや抽象度の高いテーマですので、市民や学生の声の聞き方、協働の仕方にも、例えば小さい意見交換の場をいくつか設けるとかの工夫がいるかとも思います。